

56
 聞いてきました
みんなの広場

藤川をきれいにする会

お話を伺ったのは、会長の関口隆治さんです

自然環境豊かな藤川を地域で守る



活動する会員

藤川の歴史

藤川は前橋市を流れる広瀬川が三河町十六本堰で取水された分流で、利根川まで全長約10キロメートルの河川です。

1947年に発生したカスリーン台風により藤川が氾濫したため、河川改修工事が実施され、約10メートルだった川幅も30メートル程度に広がりました。現在まで農業用水として利用される重要な河川です。

かつては、農作業の後に牛や馬を連れて藤川で体を洗ってやったり、水車も幾つかありました。子供たちは水遊びをして、魚とりやホテル狩りを楽しんでいました。

発足の経緯は

今では考えられないようなごみが大量に捨てられたり、工業排水の流出などにより汚染が進んだため、自然環境豊かな藤川沿線を継続的に守ろうと1985年11月30日に「藤川をきれいにする会」が発足しました。昔ほどではないですが、たくさんの人たちの活動が実り、多くの生き物たちが藤川に帰ってきました。

どんな活動をしていますか？

年間を通して玉村町を流れる藤川沿線の草刈り、桜の消毒、枝切り、魚の生息調査など、環境保全・美化活動をはじめ、小学生への課外授業、麦踏み、昔の遊びの継承、たこ揚げなど、玉村町の未来を担う子供たちの

青少年健全育成にも取り組んでいます。

上陽小学校の3年生が総合学習の一環で、みんなで藤川のごみ拾いや魚とりをしています。



ごみ拾い



魚とり

これらの体験を通して、いつまでも地域の川を大切にしたいと思っています。



藤川の歴史や役割を学ぶ



1年生が地域の田んぼでたこ揚げ

※「岩倉自然公園 水辺の森を愛する会」でも活動しています。ボランティア活動に参加を希望される方は、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ **藤川をきれいにする会**
 ☎ 65-6844 (会長：関口)

今回は笠原委員が取材しました

蒸し暑の 梅雨が明けたる 超熱の

(詠み人 コバケン)

たまむら 議会山柳

五月末に玉村町クリーンセンターの見学会に行き、帰りに北部公園を周る電動バスに乗りしてみた。ゆつくり走るバスの車窓から初夏の黄金色に輝く麦秋が眩しかった。この議会だよりが届く頃には田植えも終わり、梅雨も明け、さんさんと降り注ぐ真夏の太陽の光が満ちあふれていることだろう。麦わら帽子が似合う夏がやってくる。子供の頃、子供会で信州の小諸に母と行った帰り、SLの窓から帽子を飛ばされたほろ苦い思い出がよみがえってきた。郷愁を誘う変わらぬ故郷の原風景がそこにはあった。



- 議会広報特別委員会**
- 委員長 小林 一幸
 - 副委員長 羽鳥 光博
 - 委員 堀越 真由子
 - 委員 松本 幸喜
 - 委員 新井 賢次
 - 委員 笠原 則孝
 - 議長 石内 國雄

こちら編集室

やっと玉村の夏の風物詩が復活する。盛況のうちに終えることを願う。令和に入り、初頭から世界的な規模でのコロナ禍が社会から生活を遠ざけた。マスクの要らない生活を期してその終焉を願う。

また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は断じて許し難き暴挙である。一刻も早い平和を希求する。日本も改めて備えを固め、自国は自らの手で守り抜くという強い決意を感じざるを得ない。

(羽鳥光博)

次回定例会の予定

9/1 木
 ~15 木

本会議・委員会は、どなたでも傍聴できます

6月議会の傍聴者は28人でした(男20人・女8人)

